

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291300057		
法人名	株式会社在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい伏見		
所在地	駿東郡清水町伏見280-2		
自己評価作成日	令和4年 11月 17日	評価結果市町村受理日	令和5年 1月 18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和4年 12月 10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

まだまだ続くコロナ禍の中で、利用者様が楽しみにされていた外出・外食に出掛けることができないため、ご要望をお伺いし、毎月行っている行事の中で地域のお店にお弁当をお願いしたり、同じ建屋の小規模多機能の利用者様と餃子や焼売、お好み焼きなど調理レクを行っています。リネンの導入や業務の簡素化を図り、利用者様との関わる時間を増やし、想いを伺う時間や個別支援を行っています。その中でも、足浴は利用者様からとても好評です。入浴時には入浴剤を使い、良い香りの中、ゆつくりと入浴して頂いています。天気の良い日には、様々なお花が咲いた施設内花壇付近でお茶を飲まれたり、季節の野菜の収穫を楽しまれています。開設当初から継続しています利用者様ごとのお手紙を毎月作成し、日々のご様子をご家族様にお知らせしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍で外出が思うようにできず、昔から付き合いのある人ともなかなか会うことができない中、感染状況を確認しながらその都度対応を検討している。入所前に利用した一階にある小規模多機能で面識のある利用者とは、ホームに入所してから継続して会えるよう、一緒に行事を行うなど途切れない様に努めている。スムーズに入所ができるよう職員間でも一緒に支援をし顔見知りとなっている。職員もアットホームな雰囲気が持てるよう、天気の良い時は玄関先でお茶を飲みながら四季折々の花や野菜を鑑賞しゆったりとした雰囲気に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議等で事業所の理念についてその実践や想いが出来ているか確認し、その想いを職員間で共有しています。	全体会議の時に理念に基づいて自分が気を付けていることを発表したり、朝礼の時に五か条の一つを管理者が話をし、イメージを持ちながらその日の業務の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染対策ためイベントの開催の自粛、地域の行事等も中止されているため交流は難しくなっています。同じ建屋の小規模の利用者様とお顔なじみの方も多く、施設内で交流を行っています。コロナが終息した際には地域交流を再開していきたいです。	ボランティアを受け入れていたが、コロナ禍で今は受け入れていない。天気の良い日には玄関先にある花壇で、近所の人とあいさつを交わしている。また小規模多機能を利用しての方とは交流を持つように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が認知症キャラバンメイトとして活動し、地域の方々に発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染対策のため、開催できず書面にてご報告となっています。ご家族様に連絡がある際に、ご要望やご意見を伺っています。	コロナ禍で開催は難しいため、二ヶ月に一回現在の状況等を行政や家族・民生委員に書面で報告をしている。書面を渡した時に意見を聞く様にしている。	運営推進会議録に日常の様子だけではなく、意見や要望、改善した点も記載し、地域住民の意見を取り入れより一層のサービス向上に繋がることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターや役場に出向く機会が多く、協力関係を築くようにしています。	会議等に出席して近況報告をしている。コロナ禍で面会ができないことや、外泊の希望があった時などに相談をしている。また、包括支援センターに後見人が付いた利用者の様子などを報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ゼロ宣言のもと、全体会議での委員会や身体拘束の研修、言葉の言い換え等を行い意識を持ち、拘束のないよう努めています。	会社で開催される研修に参加をしており、出席できなかった職員にはホームの全体会議で再度伝達をし共有を図っている。研修では言葉の言い換えや上から目線にならないように周知している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修・アンケートが法人で行われています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用させている利用者様がいらっしゃる、事業所にて制度の理解のため研修を行いました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様やご家族様が不安にならないよう、ご理解頂けるよう説明し、またご要望等もお伺いし、その方の培われた人生を大切にご支援できるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部者へ表せる機会は現在感染症対策のため実施できていませんが、短時間の面会時や電話連絡の際にご家族様からご要望を伺い、施設では利用者様にご要望等をお伺いし改善提案要望書に記載し、運営に反映させたり情報共有を行っています。	家族が荷物を持参し訪ねて来た際に、利用者の様子を伝えながら意見等を聞くように努めている。利用者からは日常の会話から要望を聞く様に努め、意向があった時は提案書に記載しその都度対応し検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談や毎月の全体会議やフロア会議で意見をくみ上げ、反映させています。	フロア会議や個人面談の時に意見や要望を聞く様にしている。職員の都合による勤務体制の変更や、利用者が重度化になり様子観察がより必要となった際には居室の変更をするなど、きることはその都度対応をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度による評価を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や基礎研修にて介護技術の向上、全体会議にて職員による研修を開催しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センターが主催している連絡会に参加しています。また、同町にあるグループホーム管理者と意見交換等を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期は不安な気持ちになるため、ご本人のお気持ちを傾聴したり、少しでも早く生活に慣れて頂けるように関りを多く持つよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご要望や生活歴をお伺いし、どのような生活を送ってほしい等お伺いしながら支援が出来るよう努めています。また、入所後はご家族もご心配になると思いますので、連絡も密に行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設に入居された後も、ご本人やご家族の状況により様々な選択肢がある事を説明しています。		
18		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自身で出来る喜びや役割がある事で「出来る」ことが沢山あることに自信を持って生活を送って頂けるように協力させて頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の絆を第一に考え、より良い関係が築けるように協力させて頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は、感染症対策のため難しくなっていますが、同じ建屋の小規模多機能の利用者様とごみの方々が多く、交流が行われています。	昔からの知り合いで小規模多機能を利用している人や、利用した時に親しくなった人と利用者が一緒に行事を過ごし交流を図っている。以前行っていたお店など再開できるよう検討をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション時やお近くの席の方と会話を楽しまれたり、難聴等で会話が難しい利用者様には職員が積極的に関わり、孤立せず生活が送れるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は感染症対策のため行えていませんが、大きな行事の際にはご参加のお声がけさせて頂いていました。移動された施設に訪問する機会もあり、状況をお伺いしたり、ご本人とお会いしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族の希望、ご意向を伺いながら、改善提案報告書等へ記載し、情報共有をすることで情報共有と改善やご要望に添えるように検討しています。	落ち着いて過ごしている時や日頃の会話から、希望や食べたいものを聞いている。一対一で話が出来る夜勤の時に、意向を聞いたりしている。家族からは訪問した時や電話で聞く様にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から伺った生活歴等の情報を共有し、利用者様が大切にしてきたことを把握し支援に役立てています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、少しの変化を見流さないように努めています。言葉かけをし、ご本人の訴えや言葉にならない訴えを読み取れるよう努めています。マイナスな部分よりも有する能力や継続して出来ることに着目しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族、関係者と担当者会議等でアイデアを出し意見を反映しながら計画を作成しています。	状況を把握すると共に利用者、家族の思いを聞いたうえで必要なケアを検討し計画書に反映している。家族を交えたカンファレンスが開催できないので計画書の内容を訪問時や電話で伝え意見を聞く様にして同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個人記録に記載し、職員間で情報共有しながら支援しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じ、受診対応や必要物品の購入等、その時に必要な事が困難である際に早急に臨機応変に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は感染症対策のため面会に制限を設けさせて頂いているため行えていませんが、以前は地域にお住いの友人の方が面会に来られていたり、ボランティアの方が訪問してくださいました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力医について、かかりつけ医での対応等を説明しています。月2回の訪問診療では、ご本人の不安な事をご本人もしくは職員から主治医に相談し、ご本人に取って適切な医療が受けられるよう支援しています。	入所時に説明をしてかかりつけ医を決めてもらっている。入所前からのかかりつけ医を希望した時は家族に付き添いをお願いしており、難しいときは職員が同行をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の情報共有や特変時の相談を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のソーシャルワーカーや看護師との情報共有を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期には主治医からご家族様に現在の状態を説明して頂き、ご本人とご家族様のご意向の再確認、事業所のできる支援について説明し、多くの方々の関りを大切に生活が送れるよう支援しています。	入所時には説明をし確認をしているが、状況が変化すると意向も変わる場合があるので、体調が悪化した時は連絡をし確認をしている。本人からは日常の会話から意向を聞く様にしている。また重度化になったときは主治医からも説明をして家族の意向を確認、対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応方法の研修を定期的に行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自事業所のBCP訓練や防災訓練、風水害訓練を行っています。また施設が町の一時避難場所に認定されているので、地域の方との協力体制が必須となっています。	防災訓練を年2回、地震・火災訓練と年1回風水害の対策を実施しており、備蓄品のある場所やマニュアルを基にBCPの確認も行っている。地域の避難場所となっているため、消防署の訓練の時は近隣の人を交え協力体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議や面談にて人格の尊重やプライバシーについて話し合う機会を設けています。	理念の中にも謳っているので会議や朝礼で話をしている。排泄時などには言葉の言い換えをしたり、不快にならないような声掛けに気を付けて対応をしている。また、職員間での会話も利用者には聞こえないところとするなどの配慮を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の表情や様子から、またご本人のご要望や想いをお伺いし、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日の変更や同じ建屋の小規模多機能の顔なじみの方と過ごされたり、午後は居室で休まる等、その日のご希望により支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的にはご自身でお洋服を選ばれていますが、ご自身での選択が難しい方には同じ服装にならないようにしています。髪染めがご希望な方にはお手伝いさせて頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご要望をお伺いし、利用者様と献立を考え調理レクを行ったり、ご要望を伺い地域のお店にお弁当を発注して、普段とは違ったお食事を楽しんで頂いています。	日頃の日常会話から好みの物を聞き、近隣のお店から出前やお弁当を取り食事を楽しんでいる。利用者で調理ができる人は調理レクの時に一緒に作ったり、食器拭きなどの後片付けなどを一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量の確認を行い記録を取っています。苦手なものは別のものをご用意させて頂きご本人のご希望に沿った支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回の歯科往診や週1回の口腔指導と日々の口腔ケアにて清潔の保持を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	カンファレンスにて改善点や情報共有しトイレでの排泄が継続できるよう支援しています。また、退院後はご本人の状態を確認しながら、オムツからトイレでの排泄に戻せるよう努めています。	立ち上がりができる利用者はトイレに誘導をし排泄の支援をしている。病院から退院後はオムツ使用が多いのため、ADLの状況に応じてリハビリパンツに替えてトイレでの支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルトの摂取、運動等による便秘の予防を行っています。主治医や看護師への相談も行い便秘で利用者様がお困りにならないよう努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	定期的に入浴できるよう環境を整えています。利用者様からのご要望がある場合はご本人用のシャンプー等を利用し個々に沿った支援を行っています。	基本週2回の入浴を行っており、入浴剤を使用しながら楽しんで入ってもらうように努めている。ホームでの浴槽に入ることが難しいときは小規模多機能の浴槽でゆっくり入っていただくよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペースや状況に応じた支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や薬剤師と連携し、変化がみられる場合にはその都度相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の得意分野を生かせるよう役割や個別支援において、喜んでいただけるよう言葉かけや支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症予防のため外出は控えています。施設の花壇での外気浴や施設駐車場でのおやつタイム等少しでも気分転換が出来るよう支援しています。	コロナ禍で外出ができなかったため天気の良きときは庭でお茶を飲んだりして過ごしている。最近では感染状況を確認しながら、小規模多機能の利用者と一緒にドライブに出かけている。今後は地域の行事に参加できるように努めたいと思っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則的には金銭の持ち込みはご遠慮頂いています。手元にお金がないことで不安になられる方に関しては、ご家族様の同意のもと少額の金銭や貴重品をお持ち頂いた事もあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があり、同意のある方には柔軟に対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、その季節に合わせた飾りなどを利用者様と作成しています。生活空間の場として工夫や配慮をしています。匂いについては不快に思われる方もいるため、トイレ掃除と消臭効果のある物品を取り入れています。	季節に合った物を皆で製作し、ボードに貼り楽しんでもらっている。体操の曲を流して一緒に運動をしたり、日当たりの良い場所に座り会話をしたりして過ごしている。トイレや居室までの動線は通行しやすいように、家具の配置を考え転倒防止に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の相性やADLの状態等を考慮し対応しています。また、ソファーにご案内することでゆっくりとお話の出来る空間を作っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたなじみのあるものをご持参頂き、ご本人が安心して生活できるよう工夫しています。	家で長年使っていた馴染みの物や、本人が気に入っている物は持ってきていただいている。家族が持参した写真を貼ったり、こだわりのある本や人形など本人が落ち着いて過ごせるように配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の意思や出来る事を生かし、安全を考慮しながら出来ることを継続出来るよう支援しています。		